

新潟県トップのたまねぎ産地 を目指して

竹田 宏行

三条農業普及指導センター

三条地域では、水田の高度利用と園芸生産拡大を目指し、加工たまねぎの生産振興に取り組んでいます。平成29年産の作付けはJ A越後中央で293a（28年産201a）、J Aにいがた南蒲では104a（28年産92a）で、ほかに春植え作型の栽培実証も計画しています。単収も年々増加しており、28年産では複数の生産者が4 t / 10aの目標を達成しました。基本技術の組立と定期的な巡回指導会の開催等を通じて、栽培管理が徹底されてきた成果が現れ始めているものと考えられます。

さらなる栽培技術の向上と所得向上を目指して、昨年12月2日、県央農業振興会議・三条農業普及指導センターの主催で、富山県砺波市への先進地視察研修を行いました。参加は生産者9名を含む24名で、富山県園芸研究所、J Aとなみ野のたまねぎ集出荷施設、及び現地のたまねぎ栽培ほ場を見学しました。

J Aとなみ野では、産地化から10年足らずの取組にもかかわらず、現在112経営体で103haの作付

けがあります。施設規模の大きさに参加者一同圧倒されていましたが、施肥方法や機械装備等について積極的に質問する姿が見られました。同じ北陸でもあり、互いに現在進行形の取組であるため、非常に参考になる研修になりました。栽培技術の面では新潟県と少し違う点もあり、今後検証が必要です。

今回の研修により、産地拡大の課題がより明確になりました。主なものとして①機械装備、集出荷・調整・貯蔵施設の充実 ②それによる1経営体あたりの作付面積の拡大等です。参加者の中からは来年は1 ha以上の作付けを計画するとの声も聞かれています。また、J A越後中央では乗用型全自動移植機や新たな選別調整施設の導入に向け検討を始めています。今後は「1法人1 ha」「単収5 t / 10a」をスローガンに、産地一体で取り組む必要があります。普及指導センターでは技術支援はもとより、新規導入者の確保、産地体制強化の支援に今後も努めていきます。



J Aとなみ野の選別調整施設



砺波農林振興センター管内のたまねぎほ場